

## サー・パトリック・スペンス

- 1 ダンファリンの町でのことです  
王様が血のような酒を飲みながらたずねました  
「わしの船をあやつれる  
腕ききの船乗りはどこにいる」
- 2 王様の右手に控えた老騎士が  
大声でいうことには  
「サー・パトリック・スペンスこそ  
いちばん腕ききの船乗りでございます」
- 3 王様は長い手紙を書いてから  
自らそれに署名して  
そのとき浜辺を歩いていた  
サー・パトリック・スペンスに送りました
- 4 ひとこと読んでサー・パトリックは  
大声あげて大笑い  
ふたこと読んだそのときに  
涙が流れて眼がみえません
- 5 「おお 誰がしたのかこんなこと  
ひどいことをしてくれたものだ  
ときもあるうにこんなときに  
海に出よとはなにごとだ
- 6 「急げ 急げ みななもの  
われらが船はあす出帆だ」  
「何をおっしゃる 船長  
どえらい嵐がきますぜ
- 7 「昨夜みたのは片われ月  
陰を抱いた片われ月  
海へ乗り出しや 船長  
どえらい目にあいますぜ」
- 8 スコットランドの大宮人がお嫌いなのは  
コルクの靴がぬれること  
けれどもそのお遊びがすむまえに  
お帽子がぶかぶか波に浮かびます

9

奥方様がいついつまでも

扇かざしてすわるでしよう

サー・パトリック・スペンスが

港に帰るのを待ちわびて

10

奥方様がいついつまでも

金のかんざし髪にさして立つでしよう

いとしいひとを待ちわびて

二度と会えはしないのに

11

アバデインへ アバデインへいたる途みちすがら

五十尋ひろの海底に

サー・パトリック・スペンスは眠ります

そして足許そはにはスコットランドの大宮人

(薮下卓郎訳)